

# 箕づくりの里

木積を歩く

匠 探訪

-72-

今年で第11回目となる「おせん様のふじ祭」が行われる木積区は、豊栄地区の最も北に位置し吉田地区に接しています。集落は本郷と青葉谷などからなり、白山神社と龍頭寺、円實寺のある本郷を中心にふじ祭がくり広げられます。同区は1350年ごろ新田義貞の家臣16人が移り住んだという言い伝えとともに、龍

頭寺境内の1363年の年号が刻まれた板碑も信仰活動を伝えていきます。農具の箕は、300年ほど前に同村の「加納(叶)おせん」という女性が製作方法を考案したとされ、同家の墓石が龍頭寺境内墓地で見つかっています。

平成21年3月、「木積の藤箕製作技術」が国の重要無形民俗文化財に指定され、保存団体の「木積箕づくり保存会」によってイベントなどで製作技術が披露されています。

白山神社には樹齢数百年とされる夫婦杉が境内にそびえ、拝殿には1844年に奉納された「ダイコン投げ」の絵馬があります。この行事は明治の末まで行われていたとされます。

真言宗龍頭寺は十一面観音を本尊とする寺で、観音堂は1773年に再建され、境内に藤棚があります。

龍頭寺から坂道を上ると竹林に囲まれた日蓮宗円實寺が

あります。門柱のそばにつつじの大木があり、「ふじ祭」期間中は見る者の目を楽しませてくれます。この寺は1680年代に飯高檀林第30代檀林長の日宣が開いたとされ、日宣は同村生まれの日頭が同檀林で学んだ時の師匠といわれています。

境内の石塔を見ると、眼病守護や学業成就で名高い日蓮宗僧侶・日朝供養塔(1793年造立)、抱瘡神(天然痘)供養塔(1789年造立)がまつられています。現代と比べ医学があまり進歩していなかった時代に、安産祈願の七面堂(正面向かって左側の建物)や石塔に願いをかけた人たちの様子がしのべれます。

1884年(明治17年)秋、ここ円實寺本堂で自由党の集會が開かれました。その2年ほど前に結成された自由党下総支部八日市場分局には木積村や周辺村の有力者20人ほどが参加し、この集會が当地域での政治活動の幕開けとなりました。

箕づくりの里には、こうした人たちの足跡も残されています。

間 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



技術を伝える箕づくり